

| | |
|--------------|--|
| 補助金・助成金 | 国 都道府県 市町村 |
| 事業の評価 | 小学生には教室開催前後にアンケートを書いてももらった。喫煙してみたいと思ったことがある児童は教室開催後減っている。教室開催後、児童には感想や自分で考えたタバコの断り方を書いてもらった。中学生には感想文を書いてもらった。評価は児童生徒が成人式を迎えた時にアンケートをとり、喫煙経験者数、喫煙開始年齢等を把握する。 |
| 今後の課題 | 児童の対象選定、回数の検討の必要がある。 (平成16年度は学校と協議し、小学校3・4年、5・6年を対象に、中・高学年の内容を変えて実施した。) |
| キーワード | 思春期 喫煙予防 ■思春期における性教育の推進 |
| *** コメント *** | ここに注目！ 成人式での実態調査から得られた事実を元に事業を組み立てる姿勢があるところが評価できる。対象者を20歳まで追跡して喫煙経験者数を評価しようとする点もよい。卒業後村を出た者も、成人式には多くは帰郷することを考えると、成人式での喫煙率調査による評価は質が高いものになるだろう。母子保健担当者主導の下、学校ともよく連携されている。 |
| | エビデンスは？ — タバコの断り方を実際に書かせることは一種のSST(social skill training)といえる。SSTの効果については多くの報告がある。さらに、20歳時点の喫煙経験者数をどれだけ減少させたのか、という目標設定を行うことで、客観的な事業の評価になりつつもよい事業になる。(NK) |



三厩村役場 健康福祉課 喫煙予防教室

◎ 学校の理解、協力が得られ、授業の一環として実施している事業です。

小、中学生に「タバコの害」「副流煙の害」を伝えることで、未成年の喫煙予防を図ると共に、家庭に帰ってから、家族に「タバコは体に悪いからやめて」「役場の保健師さんがタバコのやめ方教えてくれるって」と話す機会にもなっています。

実際に「子どもにもたばこをやめろとやめろと言われればやめなきゃ」と禁煙した父親、「子どもから、タバコをやめられる方法を保健師が教えてくれると聞いて」と、禁煙相談があり喫煙者個別健康教育を行った父親もいました。

来年度は小学校の授業参観日に実施し、保護者も一緒に参加してもらおうことになりました。また、春には町村合併を迎えますので、未実施の小、中学校でも実施していきたいと考えています。

母子保健担当

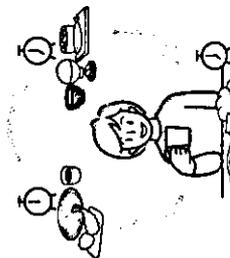
| | |
|---|---|
| 三厩村役場 健康福祉課：喫煙予防教室 | |
| 〒030-1798 青森県東津軽郡三厩村字本町 59 (TEL) 0174-37-2001、(FAX) 0174-37-2540 (E-Mail) hukuhok_minmaya@net.pref.aomori.jp | |
| 人口 2,810 人(出生数 15 人) 母子保健担当者: 保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分: 市町村 | |
| 事業課題 | ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ |
| 事業の背景 | 本村の妊娠中の喫煙率は国と比較して高い。また、成人式を迎えた人を対象にしたアンケートの結果、9割が未成年から喫煙習慣があることが分かった。小・中学生のアンケート結果でも喫煙経験があることがわかったため、未成年の喫煙を防止するため教室を実施する。 |
| 提案者 | 母子保健担当者 その他(小学校と協議し、平成11年度は保健所事業、平成13年度からは村単独事業として小学校4年、6年を対象に実施。平成15年度は中学校の要望により、教育委員会と共催で全校生徒、保護者を対象に実施。) |
| 事業のねらい・目標 | ねらい: タバコの正しい知識の習得を図り、未成年期の喫煙を防止する。児童、生徒は興味で喫煙することなく、他の人に喫煙を誘われてもきちんと断ることができる。保護者は副流煙の害を知り、家庭内分煙を行うことができる。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める |
| 数値目標 | あり |
| 事業内容 | 対象 児童 思春期 父親 母親 実施期間 平成11年7月～平成24年7月 13年計画 小学校: 小学4年一講話、人体図の塗り絵(タバコを吸うと悪く変ると思う部分に色塗り)、スモーカーキットを使用した実験、ビデオ。 小学6年一講話、妊婦がタバコを吸うとどうなるかわかる人形を使った実験、ビデオ、フラスコを使った実験(タバコを吸わせるとフラスコ内の液体にターブルがたまる)。児童は4年と6年に2回勉強し、タバコの害について学びを深める。 中学校: 薬剤師を講師とし、講話、実験(スモーカーキット)、喫煙者の一酸化炭素濃度検査)を行った。 |
| 協力機関 | 保健センター・保健所 学校 教育委員会 |
| 住民参画状況 | なし |
| 従事者内訳 | 保健師 薬剤師 事務職員 教員 養護教諭 |

| | |
|-------------------|--|
| 取り組みの事業に関するホームページ | http://www.city.kamagaya.chiba.jp/ |
| キーワード | 妊娠 出産 母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■地域の子育て支援の充実 |
| *** コメント *** | ここに注目！通常役場窓口が担当する母子保健手帳交付場で、保健スタッフが介入して指導を行なうことは大変重要である。その場の指導だけでなく、希望者を個別指導へとつなげるという点が評価できる。エビデンスは？ 妊婦の喫煙は若年女性の喫煙率の上昇で問題が顕著化している。いろいろな試みによって、なにも最も効果的な方法なのかを関係者が共有し、実践していきたい。そのためにも、それぞれの取り組みが科学的な評価をして、発信して欲しい。(NK) |



| | |
|---|---|
| 鎌ヶ谷市健康管理課 禁煙教育・指導(母子健康手帳交付時) | |
| 住所〒273-0195 千葉県鎌ヶ谷市初富 928-744 (TEL)047-445-1141 (FAX)047-443-2233 | |
| E-Mail kenkan@city.kamagaya.chibajp | |
| 人口 102,880 人(出生数 985 人) | |
| 母子保健担当者:保健師 栄養士 歯科衛生士、全保健師数 14 人(母子保健担当保健師数 7 人) | |
| 区分:市町村(保健センター等) | |
| 事業課題 | ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) |
| 事業の背景 | H14年度の母子健康手帳交付時妊婦の喫煙率 12.0%と高率のため。 |
| 提案者 | 母子保健担当者 |
| 事業のねらい・目標 | パンフレットを活用し、喫煙指導を行うことにより、当市における妊婦の喫煙率の減少を目的とする。 ■ 住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■ 住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する |
| 数値目標 | 数値目標あり |
| 対象 | 妊産婦 |
| 実施期間 | 平成 15 年 4 月 ~ 平成 18 年 3 月 3 年計画 |
| 事業内容 | 母子健康手帳交付時に全数面接し、喫煙者に対し状況確認をし、「ママ、タバコ吸わないで」のパンフレットを利用し禁煙に向けての助言を行いその後、禁煙の希望がある妊婦に対して、個別禁煙相談を行なう。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化 ■マニュアル・ガイドラインの作成 |
| 協力機関 | なし |
| 住民参画状況 | なし |
| 従事者内訳 | 保健師 |
| 補助金・助成金 | なし |
| 事業の評価 | ○喫煙妊婦に対しては妊娠中に禁煙中に禁煙しているかを確認し評価を行う ○母子健康手帳交付時の喫煙率の低下。 |
| 今後の課題 | 思春期保健対策 |

| | |
|-------------------|---|
| 事業の評価 | 肥満実態調査年次推移より【4・5歳児】平成10年度 3.8% 14年度 1.7% / 【小学生】平成9年度 12.9% 14年度 9.2% / ○肥満児の割合は年々減ってきている。 / 肥満児の年次推移のほかにはアンケートの実施等。そのほかの評価方法についても検討中。 |
| 今後の課題 | 協議会を発足してから5年目に入り、これまでいろいろな取り組みをしてきた。子どもを囲む環境も少しずつ変化するなかで、そのときどきの健康問題にそった取り組みを検討し、継続していく必要がある。また、子どもの生活習慣を考えると、保護者や家族全体の生活習慣を見直していく必要がある。保護者に対してはどう呼びかけていくか等も課題として考えられる。 |
| 取り組みの事業に関するホームページ | |
| キーワード | 心身 ■なし |
| **** コメント **** | ここに注目：強い問題意識を背景に、関連機関の連携のもと、具体的な活動が進んでいる。重点課題を決めてアピールしていく点が高い啓発効果が期待される。「我が家の自慢の朝ごはん」のように、住民参加型、住民主役の啓発情報の配布は健やか親子21の理念をよく踏襲している。ポピュレーション・ストラテジーによる食育の推進、肥満予防といえる。地域全体の児童の肥満有病率を評価項目とする点は妥当である。(NK) |



| | |
|--|---|
| 朝来町保健福祉課 健康な子どもを育てる協議会 | |
| 住所 〒697-3431 兵庫県朝来郡朝来町新井 148 (TEL)079-677-1724 (FAX)079-677-1357 | |
| E-Mail hokenhukusi@town-asago.jp | |
| 人口 0人(出生数 0人) | |
| 母子保健担当者:保健師、全保健師数 0人(母子保健担当保健師数 0人) 区分:市町村(保健センター等) | |
| 事業課題 | <ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) |
| 事業の背景 | 平成9年度に小学生肥満児童の割合が県下でワースト4位だった。子どもの肥満は、生活習慣との関係が深いことから、子どもの食習慣・生活習慣について家族・地域ぐるみで考えるために保健福祉課(保健師・栄養士)、教育委員会、学校養護教諭等が協議会を発足。子どもの健康のための取り組みを関係者で検討している。 |
| 提案者 | 自治体の長 その他 |
| 事業のねらい・目標 | <p>子どもの心身の健康問題について各関係者が検討し、取り組みへとつなげていく。家族・地域ぐるみで子どもの健康について考え、それが地域全体の健康にもつながるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する |
| 数値目標 | 数値目標なし |
| 対象 | 幼児 学童 思春期 父親 母親 家族 |
| 実施期間 | 平成10年2月～平成16年3月 5年計画 |
| 実施内容 | 栄養指導、歯科指導等を実施。またこれまでは、子どもの健康に関する標語を募集しその中から協議会の活動テーマを『あさ ひる ばん しっかり食べて元気に遊ぼう』に決定。特に「朝ごはんの大切さ」に重点を置いて「我が家の自慢の朝ごはん」メニュー等を募集、冊子にまとめた。また、幼稚園から中学生までを対象に子どもの生活習慣・歯科アンケートをとり、子どもの健康問題を見直し検討している段階である。 |
| 事業内容 | ■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進 ■調査・研究 |
| 協力機関 | 保健センター・保健所 福祉事務所 子育て支援センター 保育園 幼稚園 学校教育委員会 その他(町内開業医師) |
| 住民参画状況 | なし |
| 従事者内訳 | 保健師 栄養士 医師 歯科衛生士 保育士 養護教諭 |
| 補助金・助成金 | 市町村 |

| | |
|-------------------|---|
| 今後の課題 | 今後も保育園・幼稚園と協力して啓発活動をしていきたい なお、ビデオ、ミニ絵本については、城南区以外の保育園・幼稚園等へ販売している。 |
| 取り組みの事業に関するホームページ | |
| キーワード | O157、予防、ツール開発、ビデオ、絵本、幼稚園、保育園 ■子どもの事故防止 ***** コメント ***** O157感染症は、とくに子どもや高齢者にとっては重篤な結果をまねく可能性が高く、その予防は確実・早急なものが望まれる。福岡市城南区では、過去の集団感染を繰り返さないために、対象を絞った予防啓発事業を展開している。幼児向けに特化した保健教材が少ない中で、オリジナルのキャラクターを作り、それらをビデオと絵本に登場させた予防啓発ストーリーを作るというたいへんに手の込んだ取り組みといえる。子どもたちの息をのむ姿が見えるようだ。予防教室を28回にわたって展開するなど、母親たちの不安の解消とともに予防行動を喚起しようとする本事業では早くも成果があらわはじめているようだ。(KM) |



| | |
|---|--|
| 福岡市城南区保健福祉センター 衛生課：親子でやろう乳幼児のO157予防キャンペーン | |
| 住所 〒814-0103 福岡市城南区鳥飼五丁目2-25 (TEL) 092-831-4219 (FAX) 092-822-5844 (E-Mail) eisei.jwo@city.fukuoka.jp (ホームページ) http://www.city.fukuoka.jp/index.html | |
| 人口 119,000人(出生数 1,044人) | |
| 母子保健担当者、全保健師数(+母子保健担当保健師数)：記載なし 区分：政令市・特別区(本庁・保健所等) | |
| 事業課題 | ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) |
| 事業の背景 | 平成14年6月に区内の保育園で感染者126人(内園児86人)のO157集団感染が発生。保育園や保護者の間から感染に対する不安を訴える声が根強いため、区独自の事業として城南区保育園長会と協力しながら企画した。 |
| 提案者 | その他(保育園) |
| 事業のねらい・目標 | O157のハイリスクグループである幼児とその保護者にターゲットを絞った予防啓発 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める |
| 数値目標 | 数値目標なし |
| 対象 | 幼児 父親 母親 |
| 実施期間 | 平成16年7月～平成16年8月 1年計画 |
| 事業内容 | 子どもが親しみやすいよう、油山(区内にある山)に住む森の妖精「ニッコりん」とO157の五様「ワルもん」というオリジナルキャラクターが登場するビデオ(約10分)とミニ絵本(「ニッコりん」とワルもんのみんなまでO157予防)を作成し、区内の各保育園・幼稚園で、園児・保護者・職員を対象に計28回のO157予防教室を開催した。 ■個別支援や集団支援のツール開発 |
| 協力機関 | 保育園 幼稚園 |
| 住民参画状況 | ■計画から参加 |
| 従事者内訳 | その他(食品衛生監視員) |
| 補助金・助成金 | なし |
| 事業の評価 | ビデオに対する子ども達の反応が良く、事後に「ワルもんが口に入ると病気になる」「ワルもんが来るから手を洗う」などの会話が聞かれた。保護者のアンケートから「焼肉の箸は盲点だった」「子どもにはレバ刺しを食べさせないようにしたい」「子どもと一緒に手洗いをしたいと思う」「このような教室を定期的にやって欲しい」等の感想がみられた。 |

以下は登録公開内容の一覧です(掲載内容はサンプル)

| | |
|------------|--|
| 団体名 | 〇〇県**保健所 |
| 住所 | 〇〇県〇〇市**町1-2-3 |
| 電話・FAX | (TEL) 012-345-6789 (FAX) 987-654-3210 |
| E-Mail | hoge hoge@hoge hoge.jp |
| ホームページ | http://hino.yamanashi.med.ac.jp/sukozaka/ |
| 人口 | 480,000人 |
| 出生数 | 4,000人 |
| 母子保健担当者 | 保健師 |
| 全保健師数 | 21人 |
| 母子保健担当保健師数 | 2人 |
| 区分 | 都道府県保健所 |
| 事業名 | 薬物乱用対策～地域における予防・相談・援助のトータルプランの英 現を目指して～ |
| 事業課題 | 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 |
| 事業の背景 | 1 薬物問題は「第3次覚醒剤乱用期」といわれおり、青少年の拡大があげられ ている。 2 薬物問題には、予防対策と乱用者対策の双方向からのアプローチが必要であ り、その対策の体系はできていない。 3 薬物問題はその対応の際、司法・保健・医療など多方面からのアプローチが 必要であるが、関係機関の連携はできていない。 4 青少年の保護者だけでなく、地域の住民の意識も高くなく、問題意識をもつ ていない。 |
| 提案者 | 母子保健担当者 その他(企画分野の保健師) |
| 事業のねらい・目標 | 1 予防策として、小学生・中学生に重点をおいた薬物に対する正しい知識の 普及を図るために、学校での健康教育の実施率をあげる。 現在小学生で3割・ 中学生で6割 2 実施内容を整理して、広く教育が実施できるようにプログラムを作成する。 3 プログラムを活用して、住民のボランティアの養成をする 4 乱用者に対して対応するために、関係者のネットワークをつくる 住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める。 住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する。 住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する。 |
| | 数値目標あり |

次ページへ続く

3. 団体情報の登録画面になります。説明に似し、入力して行ってください。
入力が終われば、「次へ」をクリックしてください。

団体名: 〇〇県**保健所

住所: 〇〇県〇〇市**町1-2-3

電話・FAX: (TEL) 012-345-6789 (FAX) 987-654-3210

E-Mail: hoge hoge@hoge hoge.jp

ホームページ: http://hino.yamanashi.med.ac.jp/sukozaka/

人口: 480,000人

出生数: 4,000人

母子保健担当者: 保健師

全保健師数: 21人

母子保健担当保健師数: 2人

区分: 都道府県保健所

事業名: 薬物乱用対策～地域における予防・相談・援助のトータルプランの英
現を目指して～

事業課題: 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

事業の背景: 1 薬物問題は「第3次覚醒剤乱用期」といわれおり、青少年の拡大があげられ
ている。
2 薬物問題には、予防対策と乱用者対策の双方向からのアプローチが必要であ
り、その対策の体系はできていない。
3 薬物問題はその対応の際、司法・保健・医療など多方面からのアプローチが
必要であるが、関係機関の連携はできていない。
4 青少年の保護者だけでなく、地域の住民の意識も高くなく、問題意識をもつ
ていない。

提案者: 母子保健担当者 その他(企画分野の保健師)

事業のねらい・目標: 1 予防策として、小学生・中学生に重点をおいた薬物に対する正しい知識の
普及を図るために、学校での健康教育の実施率をあげる。 現在小学生で3割・
中学生で6割
2 実施内容を整理して、広く教育が実施できるようにプログラムを作成する。
3 プログラムを活用して、住民のボランティアの養成をする
4 乱用者に対して対応するために、関係者のネットワークをつくる

住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める。
住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する。
住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する。

数値目標あり

IV. 評価メンバー

セレクト100選抜は当研究班のメンバー（主任研究者、分担研究者、分担研究者、研究協力者）を中心に作業をおこないました。また、コメントの作成にあたっては、加えて、あいち小児保健医療総合センター総合診療部長の山崎嘉久先生に評価のコメントをいただきました。選抜および評価コメント執筆者は次のとおりです。

| 氏名 | 所属 | 役職 |
|--------|------------------------|------------|
| 近藤 尚己 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 | 助手 |
| 鈴木 孝太 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 | 助手 |
| 武田 康久 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 | 助教授 |
| 田中 太一郎 | 滋賀医科大学福祉保健医学講座 | リサーチレジデント |
| 谷原 真一 | 島根大学医学部公衆衛生学講座 | 助教授 |
| 玉腰 浩司 | 名古屋大学大学院医学研究科公衆衛生学 | 助教授 |
| 中村 敬 | 日本子ども家庭総合研究所、大正大学人間学部 | 教授 |
| 長瀬 博文 | 富山県衛生研究所 環境保健部 | 環境保健部主幹 |
| 松浦 賢良 | 福岡県立大学看護学部地域看護学講座 | 教授 |
| 栗袋 淳子 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 | 大学院生 |
| 山縣 然太郎 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 | 教授 |
| 山崎 嘉久 | あいち小児保健医療総合センター総合診療部 | 部長 |
| 山田 七重 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座 | 元リサーチレジデント |
| 山中 龍宏 | 緑園こどもクリニック | 院長 |

五十音順

【 研究班 】

平成16年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

研究課題：健やか親子21の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究

課題番号：16110101

主任研究者：山縣然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）

分担研究者：松浦賢良（福岡県立看護大学看護学部地域看護学講座）

山中龍宏（緑園こどもクリニック）

中村敬（日本子ども家庭総合研究所、大正大学人間学部）

谷原真一（島根大学医学部公衆衛生学講座）

武田康久（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）

* 謝辞 本書作成にあたり、川村由美子氏、川窪ゆう子氏、吉岡名保恵氏、安達麻衣子氏、雨宮志乃氏に編集のお手伝いをしていただきました。この場を借りて感謝の意を表します。

| | |
|--------------------------|---|
| 対象 | 思春期 |
| 実施期間 | 平成14年4月～平成16年3月 2年計画 |
| 実施内容 | 1 学校において、小学生における健康教育の実施状況と教師の意識調査。 2 1の実践及び検討委員会（教育関係者・相談機関等）を開いて、平成14年度はプログラム（案）の作成、平成15年度はプログラム（案）の試行を行い、CD-ROMに保存して、各学校に配布 3 プログラムを適用してのボランティア講習会の実施と学校への紹介 4 乱用者対策については、関係者とのケース検討を行い、ケースマネージメントについて研修する。 |
| 協力機関 | ネットワークの推進 ケアシステムの構築 調査・研究 学校 教育委員会 警察 地域のボランティア |
| 住民参画状況 | 実施主体側として |
| 従事者内訳 | 保健師 養護教諭 その他(民生委員 保護司 ケースワーカー) |
| 補助金・助成金 | 市町村 |
| 事業の評価 | 1 小学校・中学校での健康教育の実施率（教育長で調査しているので確認する） 2 プログラムCD-ROMの作成。 3 健康教育が実施できるボランティアの数（研修終了者の数） 4 ケース検討会の実施数 |
| 今後の課題 | 今後も継続する ボランティアの実践の推進 |
| 取り組みの事業に因るホームページ | http://shine.yamanashi.med.ac.jp/sukoyaka/ |
| 報告キーワード | 薬物 健康教育 プログラム作成 教材 ボランティア育成 ケース検討会 |
| この事業があげてはまる項目にチェックされています | <input type="checkbox"/> 地域の子育て支援の充実 <input type="checkbox"/> 小児医療の充実 <input type="checkbox"/> 病気や障害のある子どもへの支援 <input type="checkbox"/> 子どもの事故防止 <input type="checkbox"/> 虐待の発生予防 <input type="checkbox"/> 思春期における性教育の推進 <input type="checkbox"/> 食育の推進 <input type="checkbox"/> 妊婦中からの母子歯科保健の推進 |

都道府県別・事業索引

愛知県

幡豆郡吉良町保健福祉課(保健センター)：ワーキングママサロン……………123
 愛知県半田保健所：虐待防止対策事業(ほっとはーとめいどクラブ)……………135
 幡豆郡吉良町保健福祉課(保健センター)：祖父会……………139

青森県

天間林村健康福祉課 赤ちゃんふれあい体操学習……………5
 西目屋村保健センター 子育て教室……………7
 坂野町健康福祉課 赤ちゃんふれあい体操学習……………9
 青森県：妊婦健診票の活用……………37
 采泊町福祉課：禁煙 防煙対策……………187
 三風村役場 健康福祉課：喫煙予防教室……………191

石川県

金沢市保健所：性感染症相談(クラミジア抗体検査・相談)事業……………25
 石川県健康福祉部健康推進課：妊婦禁煙サポート事業……………43
 石川県健康福祉部健康推進課 子育て健やかセラティ環境づくり事業……………75
 石川県健康福祉部健康推進課 入院療養児家族相談事業……………77
 石川県健康福祉部健康推進課 未熟児ママの心のケア事業……………79

茨城県

社会福祉法人美野里町社会福祉協議会：社会福祉法人美野里町社会福祉協議会訪問介護員養成研修3 総課程……………33
 鹿嶋市市民福祉部健康推進課：ペアコース……………35

愛媛県

松山市保健所：児童虐待予防対策……………119
 大野町役場：福祉保健課 保健衛生課 親子のふれあいの広場……………175

大阪府

泉大津市健康推進課：周産期における予防対応システム……………47
 泉南市立保健センター：母子手帳交付時の相談・情報提供……………63
 泉南市保健センター：地域における公民協働の子育て支援活動助成事業～遊び場マップの作成～……………83

岡山県

西栗倉村保健福祉課 中学生親子面談(教育委員会、中学校との共同事業)……………11
 岡山県阿新保健所：8020運動推進特別事業(380運動推進事業)……………179

神奈川県

葉野市市民健康課：おめでた家族教室(父親母親教室)……………41
 茅ヶ崎市健康づくり課：ハイリスク妊産婦教室(まいママの子育て教室、働くママの母親教室)……………67
 平塚保健福祉事務所：保健福祉課 子育て虐待予防対策～不適切な養育を見落とさず所内で共有し対応していくために～……………103
 鎌倉市健康福祉部子育て支援課：子育て支援ヘルパー派遣事業……………109
 平塚保健福祉事務所 保健福祉課：地域における授乳機能発達支援検討事業……………157

岐阜県

加茂郡東白川村役場保健福祉課 思春期自立教室……………21
 岐阜県中津地域保健研究所 セラセンター：ハイリスク妊産婦等連絡体制構築事業……………57
 岐阜県健康福祉部健康推進課 子育てセラティ環境づくり事業……………71

京都府

和知町保健福祉課：みらい君の食生活支援事業へのサポート……………163
 合志町福祉課：妊婦あちやんふれあい体操事業……………127

埼玉県

埼玉町健康課(宮代町保健センター)：乳幼児健診未受診児フォロー……………121
 さいたま市保健所：保健センター事業ふたごっこクラブ……………145

佐賀県

鹿井市保健福祉部健康課：お父さんの子育て学級……………113

滋賀県

彦根市児童家庭課 健康管理課 虐待予防～虐待・育児不安の養育者(主に母親)のグループカウンセリング……………93

静岡県

浜松市保健福祉部健康推進課 外国人のための子育て教室……………87
 浜松市市民健康課：乳幼児健診事業(未受診者追跡の強化)……………133
 御前崎町 健康福祉課：チャイルドくらぶ(地域サークル)……………141
 舞阪町健康福祉課 保健センター：フッ素塗布事業……………171
 修善寺町健康福祉課：食育ノスタ推進事業……………183

島根県

松江町役場健康福祉課：ひよこサークル……………137

千葉県

白井市健康課：マタニティコンサート……………45
 印西市中央保健センター：児童館との連携と連携……………107
 印西市中央保健センター：多胎児支援事業……………111
 大多喜町健康福祉課：地域けんこう委員会 大多喜中学校区けんこう委員会……………189
 鎌ヶ谷市健康福祉課 禁煙教育・指導(母子健康手帳交付時)……………193

東京都

品川区 健康課 ひきこもり家族教室……………15
 武蔵野市福祉保健部健康推進課：ペンゼン学級(就労妊婦のための母親学級)……………49
 東京都多摩立川保健所 企画調整課：健康日本21「健やか親子21」のたばこ対策を推進する関係者への支援「妊婦の喫煙をゼロにする」が主プロジェクト……………81
 東京都杉並区杉並保健所：保護者のこころの相談……………131
 東京都杉並区杉並保健所 産後のメンタルケアの充実(4か月健診へのEPDS導入)……………161
 東京都多摩保健所 子どもの虐待予防活動の展開……………153

徳島県

徳島県阿南保健所 健康対策係 未熟児サポート事業……………69

鳥取県

鹿野町立保健センター：学校・地域産科保健推進連携モデル事業……………185

長野県

長岡県南保健所 思春期相談事業……………13

長野県

八千穂村役場 すこやか応援団……………89
 駒ヶ根市教育委員会子ども課：子ども行政の一元化子ども課設置……………101
 長野市和野村保健福祉総合センター：子育て交流会……………117

奈良県

王寺町役場 保健福祉課 健康管理係：ちびっこクレーン活動……………143

新潟県

長岡市健康課 休日健康診査……………91
 糸魚川市 障害児通園事業：ささゆり教室……………97
 新潟市保健所健康予防課：小児肥満対策事業～食育の推進～……………169

兵庫県

社町保健福祉課 保健センター：産前産後(ナーサーグループ)……………115
 朝来町保健福祉課 健康な子どもを育てる協議会……………195

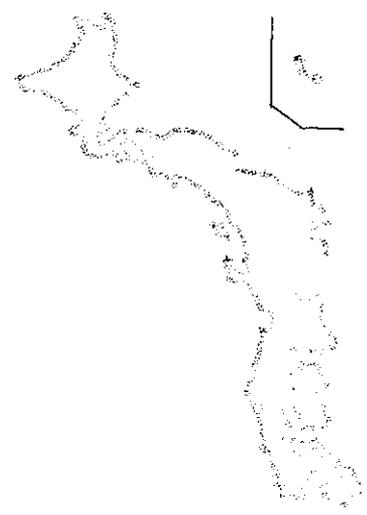
広島県

加計町福祉保健課：3歳児健診……………105
 西條町保健福祉総合センター しおわせ館 健康福祉課：フィリピン料理講習会(おひさま百科)……………161

福井県

今立町健康福祉課 スクールカウンセラーを囲んでおしゃべり会……………17
 松岡町総合福祉センター：思春期の保健福祉体験学習……………27
 三方町保健センター：妊婦産科健診と産後ケア……………181

| | | |
|-------------|---|-----|
| 福岡県 | 福岡市健康福祉総合センター(ふくとびあ)：プレナイト・イベント事業..... | 51 |
| | 福岡市城南区保健福祉センター 衛生課：親子でやらう乳幼児の0157予防キャンペーン..... | 197 |
| 福島県 | 福島県保健福祉部自立支援領域 子育て支援グループ 若者の妊娠実態調査事業..... | 19 |
| | 古殿町 健康センター：ママさん学校..... | 65 |
| | 福島県 美郷村役場 健康福祉課「すくすく教室」及び「発達クリニック」(乳幼児育成指導及び発達相談事業)..... | 95 |
| | 湯川村保健センター：将来に有効な働き方技術の獲得..... | 165 |
| 北海道 | 網走市保健福祉部健康推進課：思春期保健事業..... | 29 |
| | 稚別町保健福祉課：妊産婦訪問指導事業..... | 53 |
| | 札幌市保健福祉局健康衛生部地域保健課 保健と医療が連携した育児支援ネットワーク事業..... | 99 |
| | 遠別町福祉課 ママとあそぼ・ひよこクラブ..... | 155 |
| | 奥尻町役場 保健福祉課保健指導課：薊ピーキッズ花壇団..... | 167 |
| 三重県 | 安濃町役場 住民課 中学生の健康づくり事業..... | 1 |
| | 南勢志摩県民局保健福祉部 思春期メール相談(思春期ほっとメール)..... | 3 |
| | 三重県北勢県民局 桑名保健福祉部健康増進グループ：保健所と学校・NGOとの協働で進めるエイズ教育..... | 31 |
| | 三重県伊賀県民局 保健福祉部：伊賀地域周産期メンタルヘルス事業..... | 55 |
| | 飯南町役場住民福祉課ふれあいセンターほけんふ堂 療育教室(音楽療法サークルM)..... | 147 |
| | 尾鷲市福祉保健課 ①健やか赤ちゃん訪問事業..... | 149 |
| 宮城県 | 岩沼市 民生部保健課：ママサポート(産婦・新生児訪問における産後うつ・強度の育児不安のスクリーニング調査並びにその支援)..... | 59 |
| | 築館町役場 健康福祉課：母子健康手帳交付時の個別相談..... | 61 |
| 山口県 | 山口県長門健康福祉センター：園児を対象とした禁煙紙芝居..... | 23 |
| | 玖珂町保健センター(玖珂町健康福祉課)：まみーくらす(母親学級・西瀬学級)..... | 39 |
| | 福栄村健康福祉課 地域ぐるみの学校保健委員会..... | 73 |
| | 萩市保健センター 子育て備わり推進事業..... | 85 |
| | 光市健康推進課：おっぱい育児推進事業..... | 125 |
| 山梨県 | 埴山市保健課：小児の事故予防プログラム..... | 177 |
| 和歌山県 | 有田市健康対策課保健指導係：あそびの教室..... | 129 |
| | 高野町町役場住民課：ありんこの家..... | 159 |
| | 野上町保健福祉課：ミュージアム園の母子感染予防..... | 173 |



「健やか親子21」公式ホームページ
「取り組みのデータベース」優秀事業
セレクト100

発行日 平成17年3月
編集・発行 山縣然太郎
(山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座)
平成16年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)
「健やか親子21」の推進のための情報システム構築および
各種情報の利活用に関する研究」研究班

T 409-3898 山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110
山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座
電話 055-273-9566 FAX 055-273-7882
E mail boshidat@res.yamanashi-med.ac.jp

発行日 平成17年3月

編集・発行 山縣然太郎

(山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座)

平成16年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)

「健やか親子21の推進のための情報システム構築および

各種情報の利活用に関する研究」研究班

〒409-3898 山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110

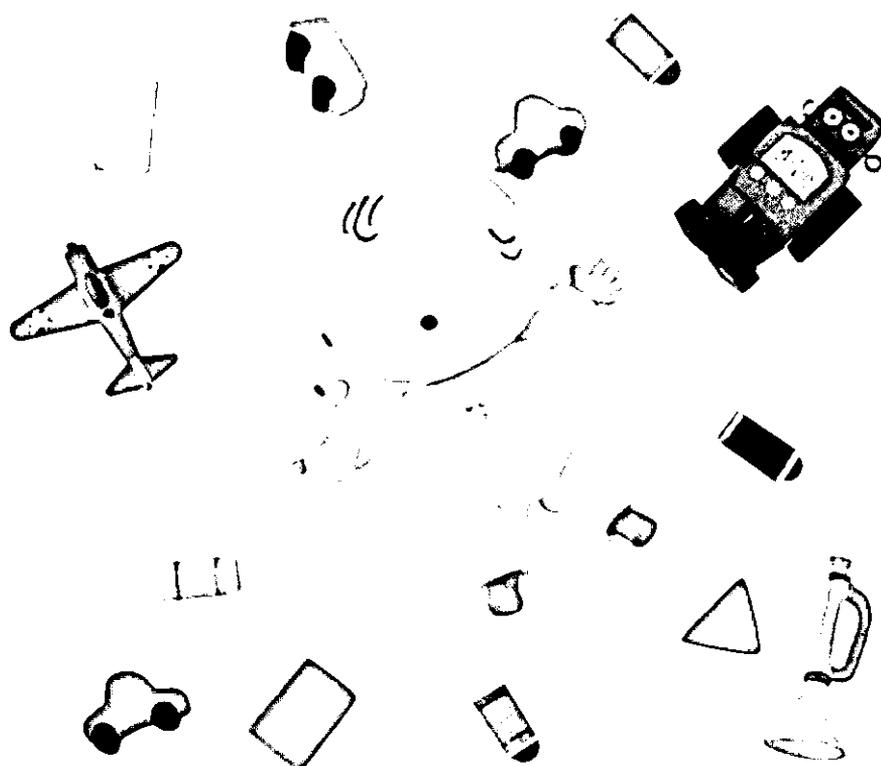
山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

電話 055-273-9566 FAX 055-273-7882

E-mail boshidat@res.yamanashi-med.ac.jp

「健やか親子21」公式ホームページ
「取り組みのデータベース」優秀事業

セレクト100



2005年 3月

平成16年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)

「健やか親子21の推進のための
情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」
研究班

<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>



主任研究者 山縣 然太郎

目 次

I. セレクト100について

II. 事業課題別の取り組み

「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」・・・・・・・・・・ 1

「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」・・・・ 35

「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」・・・・・・ 71

「子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減」・・・・・・ 83

「健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ」・・・・・・ 163

III. 「健やか親子21」公式ホームページ 取り組みのデータベースの使い方

IV. 評価メンバー

索引 ※事業課題が複数ある場合は、頁末の索引をご利用下さい。



「健やか親子 21」ホームページの「取り組みのデータベース」登録事業の「セレクト100」について

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究）
「健やか親子 21」の推進のための情報システム構築
および各種情報の利活用に関する研究

主任研究者 山縣然太郎

はじめに

この度、「健やか親子 21」公式ホームページに掲載しています「取り組みのデータベース」を、今後さらに多くの皆様にご活用いただくために、ご登録いただいた約 3200 件の母子保健事業の中から、事業計画の立案、及び、実施、評価のお手本になる優れた事業を、本研究班の分担研究者を中心に母子保健の専門家によって選抜して「セレクト 100」としてまとめることになりました。

健やか親子 21

健やか親子 21 は 21 世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンであり、かつ、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画です。安心して子どもを産み、ゆとりを持って健やかに育てるための家庭や地域の環境づくりという少子化対策としての意義と、少子・高齢社会における健康な生活の実現を目指す「健康日本 21」の一翼を担うものとして、2001 年から 2010 年（2005 年に評価と見直し）に取り組むこととなりました。このなかでは、4 つの課題、すなわち、①思春期の保健対策の強化と健康教育の推進、②妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援、③小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備、④子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減を重点課題として取り上げ、現状認識、取り組むべき方向性、具体的な取り組み、目標値を提示して、課題の克服に努めることとなりました。市町村ではこれを踏まえた「母子保健計画」を策定し、事業を展開してきたところです。一方、本年 4 月からは次世代育成支援対策推進法による「行動計画」が市町村で策定され、その中で、これらの取り組みを実施することになっています。

取り組みのデータベース

現在、市町村を中心に、健やか親子 21 の様々な取り組みがなされています。子ども

たちの健やかな成長と子育て支援のために私たちは厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究）の「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」（平成13年から平成15年）において、健やか親子21の公式ホームページを構築し、運営してきました。構築にあたり、地域での取り組みが活性化されるような情報の提供はできないかと検討しました結果、新規事業のアイデアの検索や、既存事業の再構築、事業評価などに活用できる市町村母子保健事業のデータベース構築をおこなうことになりました。ホームページのコンテンツ（項目）について、母子保健関係者を対象に調査した結果、このようなデータベースが必要であると考えている人が多いこともわかりました。そこで構築したものが「取り組みのデータベース」です。現在、当「健やか親子21の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」班（平成16年から3年を予定）で継続して構築運営しています。

取り組みのデータベースは、市町村をはじめとする健やか親子21の関連団体が、インターネット上で、情報を入力していただき、それをデータベース化したものです。団体ごとのID番号が発行されますので、その後変更等もインターネット上で可能です。現在、約3200の事業が登録されています。

データベースの利用は通常のデータベースのようにキーワード検索に加え、課題別、出生数別、保健師の数別、対象者別など18項目の検索項目を用意して、詳細な検索を可能にしています。これにより、事業の目的や地域の規模、実情にあった取り組みを検索することができます。また、検索した事業を並びかえたり、必要な事業をテキストファイル形式やCSVファイル形式で保存したりできます。

セレクト100の目的

「取り組みのデータベース」をより一層ご利用いただくために、研究班として、2つの新しい試みをする事としました。一つは、母子保健活動に特に参考になる事業を選抜して提示すること、もう一つは具体的な活用方法を提示することです。「セレクト100」は前者の目的を達成するために、評価まで含めた充実した事業、先駆的な事業、新奇性のあるユニークな事業を選抜しました。母子保健の専門家が選抜した事業は現在の自分たちでおこなっている事業との比較により、評価や事業の見直しの助けになると思います。一方、活用方法については、これまで研究班で実施してきました研修会の内容をまとめる作業をしています。

セレクト 100 選抜の過程

第 1 段階として、全 3,248 件の事業から、乳幼児健診などの通常の事業、健やか親子 21 の包括的な計画などをふるいにかけて、これにより、1,469 件の事業が残りました。

第 2 段階として、情報量が足りないために事業の内容がわかり難いもの 495 件をはずしました。

第 3 段階は、残り 974 件について、先駆性、ユニーク性、充実性を考慮し、206 件の事業を選抜しました。

第 4 段階として、最終的に 99 件の事業を選抜しました。

各課題別の件数は次のとおりです。

| | |
|------------------------------|------|
| 「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」 | 17 件 |
| 「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」 | 18 件 |
| 「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」 | 6 件 |
| 「子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減」 | 40 件 |
| 「健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ」 | 18 件 |

それぞれの事業は課題が重複するものがありますが、課題別に掲載するために、それぞれを特に関連の強い課題の中にまとめました。

総評

今回のセレクト 100 の選抜作業をおこなうことにより、地域の母子保健担当の皆さんが展開されているそれぞれの事業から多くのことを学ぶことができました。また、現場での共通の課題も見えてきました。次のようにまとめることができます。

①市町村が元気に事業を展開している

多くの市町村が健やか親子 21 の課題を様々な角度から工夫を凝らして事業展開をしていました。保健師が 1 人か 2 人のみで、母子保健から老人保健までおこなわなければならない町村でも、小規模のメリットを生かしたきめ細かい事業を展開されています。また、大規模市では専門家による充実した事業展開をおこなっているところも多く見受けられました。キャッチフレーズなどから担当者も楽しみながら事業を実施していることが伺えました。

②科学的根拠 (エビデンス) をつくりましょう

科学的根拠に基づいた事業を実施する必要がありますが、母子保健活動の全てにエビデンスがあるわけではありません。特に新しい課題に対する事業にはエビデンスがない

ものが多くあります。しかし、現場のニーズから何か事業をしなければなりません。そこで、是非、事業評価を十分におこなって、エビデンスを創出しましょう。そのためには、企画立案の段階から、評価を十分にできる仕組みを作っておくことです。また、事業効果の検討は対照があることが望ましいのですが、現場では難しいことです。しかし、時間差で事業をおこなったり、近隣自治体との連携で対照を設定したりすることも可能です。専門家の協力を得ながら、地域活動から科学的根拠をつくりましょう。

③事業の評価をしましょう

事業評価の方法は多くの市町村で悩みの種のようなようです。評価は次のような点に留意するとよいでしょう。

- 1) なぜ、評価するのかを理解する
- 2) 事業計画に評価方法を含めて、評価票を事前に作成する
- 3) 企画の評価、実施過程（プロセス）評価、効果（目標値）評価をおこなう

参考 評価のポイント

■企画の評価のポイント

1. 目的は明確か
2. 優先順位の上位の事業
3. 対象者の選定
4. 実施可能性
5. 他の事業との関連
6. 適切な評価方法
7. その他（住民参加、関連機関との連携、流行、先駆性（目新しさ）、キャッチフレーズ）

■実施過程評価のポイント

1. 企画立案はどのように行われたか
2. 住民参画は
3. 計画通りに実施されたか
4. 実施時期、費用、内容
5. トラブルはなかったか
6. 実施状況はどうだったか
7. 利用状況
8. 利用者の反応
9. スタッフの反応
10. 評価は行われたか
11. 評価の方法は正しいか

■効果評価のポイント

1. 要因の改善は果たせたか？
2. 前提要因：住民の意識、知識
3. 実現要因：住民の技術、実施できる環境
4. 強化要因：継続のためのサポート
5. 住民の行動、環境は改善したか？
6. 住民の行動指標
7. 環境指標
8. 健康指標は改善したか？
9. 疫学的指標
10. 住民の満足度

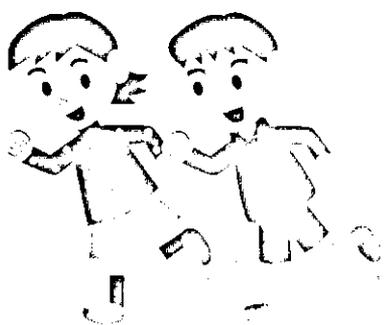
おわりに

母子保健事業は、従来の子どもたちの身体の発育・発達に関する支援だけでなく、新たな虐待などの対策が急務となっています。これらの課題を解決するために、健やか親子 21 と次世代育成支援対策推進法の行動計画について、これまで以上に保健と福祉が融合した形で実施していく必要があります。そのためには当事者である親子を中心に事業を企画し、庁内の垣根をとりはらうことはもちろん、住民主体で事業を展開していくことは不可欠です。母子愛育会などの地域活動に加え、子育て支援の NPO などの地域のキーパーソンと上手に連携しながら、健やかな子どもが育つまちづくり基盤に、全ての親子のために、元気に母子保健活動を展開していきましょう。健やか親子 21 のホームページと取り組みのデータベースがその一助になれば、幸甚です。



| 芸濃町役場 住民課 中学生の健康づくり事業 | | |
|--|--|---|
| 住所 〒514-2292 三重県安芸郡芸濃町棕本 1845 番地 (TEL)059-265-3111 (FAX)059-265-2180 E-Mail | | |
| 人口(出生数)記入なし 母子保健担当者:保健師、全保健師数 2 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村(保健センター等) | | |
| 事業課題 | <ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) | |
| 事業の背景 | 中学生の DMF 値が全国平均と比べ多い。肥満度 20%以上の子どものクラス人数に占める割合が10%を越える。平成 5 年～9 年の脳血管疾患標準化死亡比が全国値を 100 として男148・女171とかなり高い。住民健診の受診率歯高く 50%を越える。しかし、要指導・要医療者が 87%と高い。生活習慣病による死亡が全死亡に占める割合が高い(60%) | |
| 提案者 | 母子保健担当者 その他(養護教諭 地元医師) | |
| 事業のねらい・目標 | <p>まちの将来を担う子どもたちの心身の健全な育成をめざす。目標①中学生が規則正しい生活の意味について正しく理解する。②中学生が自分のからだや健康について関心をもち予防行動が取れる。③中学生の健康状況をきっかけにして家族が健康に関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する | |
| 数値目標 | 数値目標なし | |
| 事業内容 | 対象 | 学童 思春期 家族 |
| | 実施期間 | 平成 15 年 4 月 ～ 平成 16 年 3 月 1 年計画 |
| | 実施内容 | <p>学校・医療・保健・地域がいっしょに子どもたちの健康をKey Wordに子ども健康情報ネットワーク推進委員会を設置した。このネットワークを中心に中学生の健康づくり事業を展開している。特徴①全体健康教育の日を設けている。この日は、家庭クラブが中心になり骨粗しょう症予防とカルシウム摂取についてクイズと発表をおこなった。②家庭科の授業を利用してゲストティチャー(管理栄養士・フランス料理のシェフ)による講義と実習③有森裕子さんの講演会とふれあいジョギング</p> <p>■ネットワークの推進 ■調査・研究 ■その他</p> |
| | 協力機関 | 保健センター・保健所 児童相談所 保育園 幼稚園 学校 教育委員会 大学・研究機関 診療所 その他(地域活動栄養士会) |
| 住民参画状況 | 計画から参加 | |

| | |
|---|---|
| 従事者内訳 | 保健師 栄養士 医師 歯科医師 教員 養護教諭 その他(大学助教授 大学生) |
| 補助金・助成金 | 国 市町村 |
| 事業の評価 | 生活習慣に関するアンケートを実施し、朝食の摂取や睡眠勉強時間などを比較検討。血圧測定の結果・体脂肪の結果を検討。血液検査(希望者)の結果評価。各事業のあとで自記式アンケートをとり感想や意見を収集し事業評価をしている。学校教職員にも同様にアンケートを実施したがなかなか進んでいない現状がある。 |
| 今後の課題 | 継続的に実施することで、学校の中でも”健康”の大切さが認識されてきている。今後、市町村合併により事業が消滅する恐れがあること。中学時代に自分の健康に関心をもつことの意味をまちの内外に広く伝え必要性を訴えていく。 |
| 取り組みの事業に関するホームページ | |
| キーワード | 子どもの健康 中学生 ■地域の子育て支援の充実 ■食育の推進 |
| <p>**** コメント ****</p> <p>豪華な取り組みであり、子どもたちの驚く顔が見えるようだ。事業展開の基礎となる数値によるベースラインの把握もしっかりと行われている。その上で、子ども健康情報ネットワーク推進委員会を設置し、この組織を中心にした事業が展開されている。管理栄養士やフランス料理のシェフを講師に招き、中学生が本物に触れて食育を受けることができる。有名人の講演会と健康づくりをかねたジョギングをおこなう企画があるなど、町民への訴求力は高い事業といえる。(KM)</p> | |



| | | |
|--|---|--|
| 南勢志摩県民局保健福祉部 思春期メール相談(思春期ほっとメール) | | |
| 住所〒516-8566 三重県伊勢市勢田町 622 (TEL) 0596-27-5153 (FAX) 0596-27-5253 E-Mail nhoken@pref.mie.jp | | |
| 人口 271,604 人(出生数 2,095 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 10 人(母子保健担当保健師数 3 人) 都道府県保健所 | | |
| 事業課題 | ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 | |
| 事業の背景 | 友人や親子関係が希薄になっている今、性を始めとする子ども達の悩みに答えるため従来電話相談を行ってきた。しかし平日昼間のみの開設では、タイムリーな対応ができないため、現代の子供のコミュニケーションツールであるメールを利用することにした。 | |
| 提案者 | その他(思春期保健担当者) | |
| 事業のねらい・目標 | 性やこころの悩みに対し、正しい情報を提供するとともに、子どもたちが十分な理解をして健全な思春期を過ごせる ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める | |
| 数値目標 | 数値目標なし | |
| 事業内容 | 対象 | 思春期 |
| | 実施期間 | 平成 14 年 1 月 ~ 平成 18 年 3 月 4 年計画 |
| | 実施内容 | 相談専用のインターネットメールアドレスにて相談を受け付ける。返信は担当保健師が行うが、必要に応じ児童相談所や部長などの判断をもって回答する。返信の時間は、授業への支障がないよう4時以降に行う。 ■相談機能の強化 ■個別支援や集団支援のツール開発 ■情報システムの構築 |
| | 協力機関 | 児童相談所 |
| | 住民参画状況 | 実施主体側として |
| | 従事者内訳 | 保健師 その他 |
| | 補助金・助成金 | なし |
| | 事業の評価 | 1メール相談件数及び相談内容、相談回数別相談件数 2エイズ健康教育終了後のアンケートとの照合 ■今後も継続する |